

Web
セミナー

12.15

Wed. 13:30~14:30

コロナ後を見据えた連結決算業務標準化と
市場に求められる開示の実現

連結決算 開示

**DX時代に連結決算の標準化は急務。
投資家をはじめとするステークホルダーへの貢献をどう示すか？
システムの活用が、その現実解となる。**

日本はコロナ後を見据えた次の成長競争に突入した。
成長の手段として、DXを推進し効率を高める企業が増えているが、
そのような企業でもなかなか変えられない業務がある。

それは、連結決算・開示業務だ。

連結決算業務は依然としてExcelを利用する企業が多く、
現場は非効率に苦しみ、手作業による経営分析に限界を感じている。
また、CGコード改訂、東証市場再編により開示の充実が求められており、
投資家とのコミュニケーション強化も一層重要となるが、開示業務に注力できる企業は多くない。

コロナ後を見据え、システムを活用した連結決算業務の標準化と
ステークホルダーに求められる開示を実現すべき時が来ている。
本セミナーでは連結決算業務と開示の現状とトレンド、現実解を事例をふまえ解説する。

お申込み ※右のQRコードからもお申込みいただけます。

<https://www.obc.co.jp/20211215>



お申込み ※右のQRコードからお申込みいただけます。

<https://www.obc.co.jp/20211215>



第1部：
少人数・未経験で
連結決算業務の標準化を実現するには？

株式会社ディーバ
事業統括本部 東日本第1事業部
事業開発部 部長
進野 陽介氏

連結決算を行っている企業の中には、業務経験のある方に頼って属人化しているケースやExcelの関数やマクロで対応しているケースがあります。しかし業務プロセスを標準化をしておかないと、子会社が増えたり担当者が変更になった場合に、対応できなくなるリスクがあります。本セッションでは、連結会計システムを使って連結決算・開示の業務を標準化する方法をご説明します。

第2部：
WizLaboのグループ統合ビジネスレポート
ツールとしての活用法

宝印刷株式会社
ICT営業部 ICTプロダクト推進課 課長代理
杉山 大介氏

「法定開示と任意開示」、「紙とWeb」、「外部と内部」などディスクロージャーやビジネスレポートに関する業務は多岐にわたります。また、CGコードの改訂や市場再編、コロナ禍による業務環境の変化など、書類作成に関わる担当者様の負荷は増加傾向にあります。このような状況への対応策として、グループ会社データも含め、必要データを一元管理し、各媒体とリンク付けする、ビジネスレポート自動作成ツール「WizLabo」をご紹介します。

Q&A

当日は、ご質問をZoomのQ&Aより受け付けております。ぜひご利用ください。

進野 陽介氏

株式会社ディーバ 事業統括本部 東日本第1事業部 事業開発部 部長

会計系コンサルティング会社を経て2014年に株式会社ディーバに入社。15年以上にわたり制度連結からIFRS導入・管理連結まで幅広く連結業務を支援。現在、IPO準備企業様や成長企業様向けにクラウドサービスを提供する部門を牽引。



杉山 大介氏

宝印刷株式会社 ICT営業部 ICTプロダクト推進課 課長代理

大学卒業後、SEとしてシステム開発業務に従事。その後、宝印刷に転職。宝印刷では、システム開発部門、システムサポート部門を経て、現職のICT営業部に着任。IPO準備企業様から上場企業様まで、100社を超える企業様の開示決算自動化システム導入プロジェクトに参画している。



コロナ後を見据えた連結決算業務標準化と市場に求められる開示の実現

日時	2021年12月15日（水）13:30～14:30（13:15からアクセス可）
定員	100名（参加費無料／事前登録制）
対象	上場企業及びIPO準備・予定企業の経営者、CFO、財務経理・連結決算ご担当者様
共催	株式会社ディーバ／宝印刷株式会社／株式会社東京海上日動パートナーズTOKIO／株式会社オービックビジネスコンサルタント
お問い合わせ	株式会社オービックビジネスコンサルタント 堀江／坂本／大槻／本澤 mail：obc-as@obc.co.jp (9:00～17:00 土日祝祭日を除く)

- ※ 講師・共催企業と同業の方はお申込みをお断りする場合がございます。お申込みは事業会社限定です。
- ※ 講師・講演内容は予告なく変更になる可能性がございます。
- ※ 新型コロナウイルスの影響により講演が中止になる可能性がございます。

IPO準備は、ここから始まる。

IP Compass

▶ セミナー情報、コラム情報は
こちらから

